

メアブッシュ便り～第2号

●ひまわりの日曜日 (Sonnenblumensonntag)

メアブッシュ市・ビューダリヒ地区で9月25日に行われた「ひまわりの日曜日」(※)は、ひとつのショッピング街の端から端までを利用して行われるイベントのことで、イベントが行われている通りは、全てひまわりで飾り付けられるのが特徴です。



(※) ひまわりの日曜日

ドイツには、日曜日と祭日の商店の営業を規制する法律があり、メアブッシュ市のあるノルトライン・ヴェストファーレン州では、年に4日だけ、日曜日でも商店の営業が許可されています。この「オープンサンデー(販売店が営業している日曜日)」とも呼ばれる日曜日には、市内の各地区で特別なイベントが開催されます。メアブッシュ市ニュース第1号では、5月にメアブッシュ市・オステラート地区で開催された「青空市場」についてご紹介しています。



ある特設のステージでは、ファッションショーから料理の実況中継、音楽の生演奏まで、多彩なプログラムが催されました。またドルフ通りの端にある別のステージでは、子ども向けのプログラムが行われました。

ドクター・フランツ・シュッツ広場には、数えきれないくらいの小売店が軒を連ね、たくさんの品物が販売されていました。グルメゾーンでは、牡蠣やカレーウインナー(ぶつ切りにしたウインナーにカレー粉やケチャップを付けた料理)など、さまざまな食べ物のいい匂いが漂っていました。



また同じ広場で、今年初めて日本とドイツの友好関係を紹介したブースがつけられました。そこでは、四條畷市から贈られた折り紙で作ったすばらしく美しい作品が飾られました。加えて四條畷市のさまざまな情報が紹介されたり、生け花や折り紙、書道などの体験教室などが行われたりしました。

メアブッシュ市の主催でつくられた今回のブースですが、メアブッシュ市やデュッセルドルフ市に住むたくさんの日本人の女性たちが、ブース出展のお手伝いや、日本文化体験コーナーで生け花や折り紙の先生をしてくださいました。

メアブッシュ便り～第2号



「ひまわりの日曜日」イベントには、
たくさんの方が訪れました。



生け花や折り紙など、さまざまな体験
コーナーがありました。



日本文化紹介ブースを訪れたシュピ
ンドラー・メアブッシュ市長（左か
ら2番目）。

メアブッシュ便り～第2号



日本文化紹介ブースでは、四條畷市とメアブッシュ市の国際友好都市提携調印式の写真、四條畷市を紹介する写真が展示されました。



国際友好都市提携を記念してメアブッシュ市でつくられたアルバムや、本市寄贈の四條畷市在住の谷口智則さんの絵本も飾られました。



写真中央のパネルボードに展示されているのは、日本文化紹介のために、四條畷市の市民サークルの皆さんにつくっていただいた絵手紙や折り紙などの作品です。

メアブッシュ便り～第2号

●日本人芸術家による作品展ーメアブッシュ市・ランク地区「テロイの風車」にて

(Ausstellung japanischer Künstler in der Teloy-Mühle)



「メアブッシュと芸術」という作品展シリーズの一環で、「多面性」をテーマにメアブッシュ市・ランク地区にある歴史的建造物「テロイの風車」において、9月に3人の日本人芸術家による作品展が開催されました。開会式は9月25日の11時から行われ、メアブッシュ市の文化部局長でもあるアンジェリカ・ミールケ・ヴェスターラーゲ副市長により開会の辞が述べられました。

(※)メアブッシュ市在住のフクシマ・セツコさんが出展してくださったのは、自然科学に影響を受けた神秘的なオブジェでした。デュッセルドルフ芸術大学で学び、現在もデュッセルドルフ市に住むシモオオサコ・カネユキさんは、幻想的な室内インテリアを展示、日本の大学の准教授であるタケウチ・タカカズさんは、彼の撮影した様々な写真を展示していただきました。



中央で開会の辞を述べるヴェスターラーゲ副市長。その背面に展示されているのが、フクシマ・セツコさんの作品「Kon (繭)」です。



点と線から複雑な立体作品を創り出す、シモオオサコ・カネユキさん。



壁面に飾られている写真は、タケウチ・タカカズさんの作品です。

●聖マルティンの日 (St. Martinstag)



11月11日は、聖マルティン（※）の日です。この日に、私たちはトゥールの聖人マルティンを思い出します。この日は、親切と隣人愛の日です。彼が有名になった背景には、このような伝説があります：あるとても寒い夜のことでした。雪が高く降り積もり、木からはつららが垂れ下がっています。ローマの騎士マルティンは、馬に乗って一人の寒さにふるえる物乞いの前に近づいていきました。物乞いは、雪の中に座り、あたたかい上着

ひとつもおっていませんでした。彼はマルティンを見ると、助けを求めました。深い同情の気持ちから、マルティンは持っていた剣であたたかな自分のマントを半分に切り取り、半分を凍える物乞いに与えました。死から救われた物乞いは、マルティンに感謝しようとしたのですが、すでにマルティンはそこから去っていました。

（※） 聖マルティン

ローマ軍の軍人であったマルティン（マルティヌス・マルタンとも）は、物乞いを助けた後、軍を除隊し、キリスト教の聖職者として伝道活動を積極的に進めました。その謙遜と人助けの精神は、広く人々に受け入れられ、彼は偉大な聖人とたたえられました。



11月11日には、各地で子どもたちのランタン行列が行われ、その時にはマルティンの歌が歌われます。マルティンがマントを分け与えるシーンが再現されたり、マルティンのクッキーが配られます。メアブッシュ市のあるラインラント地方では、クッキーではなく「ヴェックマン」（※）という人の形をしたパンがつくられています。さらに、伝統的な料理として、ガチョウの丸焼き「マルティンのガチョウ」（*）は欠かせません。



聖マルティンの日には、子どもたちはお手製のランタンを持って家々をまわり、歌を歌ってお菓子やご褒美をもらいます。たいてい非常にたくさんのお菓子が集まるため、集まったお菓子は、恵まれない子どもたちのために寄付されます。

メアブッシュ便り～第2号



(※) ヴェックマン (Weckmann)

聖マルティンの日に配られる人の形をしたこのパンは、手には陶器で作られたパイプ（カトリックの司教の持つ長い杖に由来していると言われています）を持っているのが特徴です。



(*) マルティンのガチョウ

司教になることをしぶったマルティンが、使者から逃れるためにガチョウ小屋に身を隠したところ、ガチョウが騒ぎ出したため見つかってしまったというエピソードから、マルティンの日にはガチョウは欠かせなくなったと言われています。